

# 真理の道にはげみつっ

# 100

2004年度学術講演会  
創立100周年記念講演会

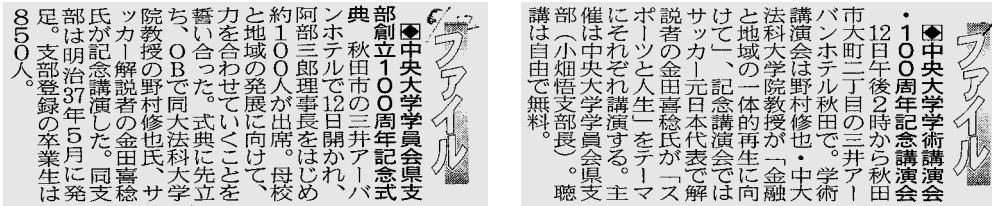


駿河台校舎中庭でのフォーク・ダンス 1964(昭和39)年11月白門祭

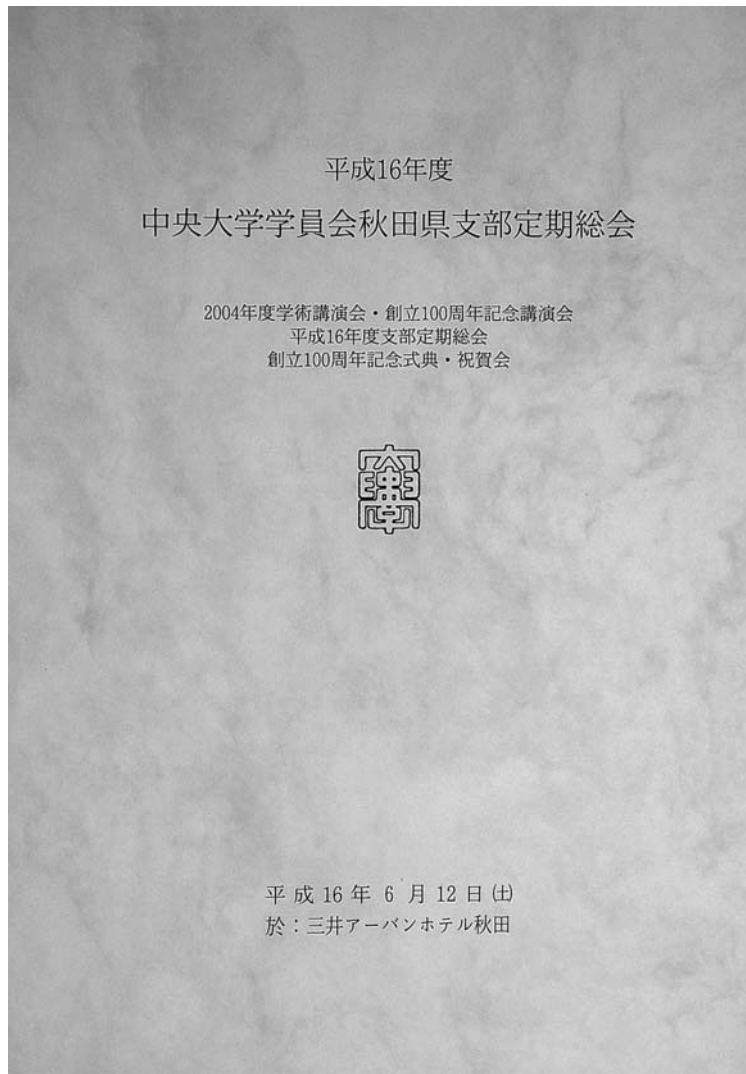


理工学部校舎全景 1963(昭和38)年5月落成

中央大学学会秋田県支部(小畑悟支部長)の創立100周年記念式典・祝賀会ならびに中央大学学術講演会は6月12日、秋田市の三井アーバンホテル秋田で開かれました。学術講演会ではともにOBで中央大法科大学院教授の野村修也、サッカー解説者の金田喜稔の両氏が記念講演をいたしました。



支部総会・記念式典の案内記事(秋田魁新報)



平成16年度中央大学学会秋田県支部定期総会パンフレット

講師 中央大学法科大学院教授  
野村修也先生

演題 「金融と地域の  
一体的再生に向けて」



野村修也先生

## 野村氏の講演要旨

学術講演会で、法科大学院の野村修也教授が「金融と地域の一体的再生に向けて」と題して講演した。

法務大臣の諮問機関である法制審議会では法改正の原案作りや修正を担当する幹事を務める野村教授は、切迫した問題として「時代は今、お金が国境を越えて動き、外国企業が日本の企業を買い取ることができるよう、法的障壁が取り除かれようとしている。しかし、背景にある外圧や規制緩和に伴う改変の動きに対し危機感が弱い」と警鐘を鳴らした。

また、緊急課題の金融と地域の再生について、「地方の金融機関、企業、地域が一体となって力を発揮できるよう真剣に取り組まなければならない。學員が幅広い分野で活躍している秋田からその道筋を示してもらえればありがたい」と語った。

野村教授は、「今日、わが国が何を行おうとしているのか、どの方向に進もうとしているのか、時代背景を踏まえながら確認する必要がある」と指摘。「日本は従来、企業乗っ取りができないよう外資などに障壁を張ってきたが、うねりとなって海外からプレッシャーが押し寄せている。現実問題としてこれ以上抗し難い」と現状を分析。

そのうえで、破たんした長銀が瑕疵担保条項付きで外資に有利に買収された前例を挙げ、「母校・中大がこの四月、法科大学院を市ヶ谷キャンパスに開設

したことも金融の再生と無関係ではない。弁護士が少ない日本では、選り好みが出てきて難しい仕事をしない。その結果、国を守る法律の専門家が育たない悪循環に陥っていた。長銀問題では『瑕疵条項はおかしい』と言える人がいなかった。ロースクール(法科大学院)開設は、過去を踏まえた国民的要請によるものだった」と述べた。

地域と金融の円滑化に向けた取り組みについては、破たんした足利銀行の教訓を挙げ、「貸し出しの目利きに甘さがあった。貸すのは銀行だからしょうがない。ただ、相手が危ないと思ったら手当が必要だった」と指摘。行員を経営陣に送り込む金融機関に対しても、「債権者として監視を目的としたケースが目立つ。銀行が金を返せといっても、資金繰りの目途が立つまで返さないのが外国では常識。銀行だけ生き残る再生であってはならない」と苦言を呈し、「商法改正などに伴う勝負の時間が迫ってきている。このことを、ぜひ心して欲しい」と締めくくった。

